Protistology Newsletter

April, 2015

日本原生生物学会会報（ No. 28 ）

URL：http://protistology.jp/

第 48 回大会（東京）のご案内（第 1 報）
第 47 回大会（仙台）報告
活性化委員会からのお知らせ
日本分類学会連合 第 14 回総会 報告
アジア原生生物学会運営会議 報告
アジア原生生物学会議 2014 参加報告
若手の会 通信
原生生物学関連の学会開催情報
事務局からのお知らせ
編集委員会からのお知らせ

第 48 回 日本原生生物学会大会（東京）のご案内（第 1 報）

大会長　　八木田 健司（国立感染症研究所）

2015 年，第 48 回日本原生生物学会大会は，下記の日程で国立感染症研究所（新宿戸山庁舎）にて開催されます．皆様ふるってご参加下さい．

1．会期　　**2015 年 11 月 6 日（金）～ 11 月 8 日（日）**

11 月 6 日（金）：　評議員会，若手の会（予定）
7 日（土）：　大会第 1 日目
8 日（日）：　大会第 2 日目

※ これらの予定は今後追加・変更する場合があります．その場合は学会ホームページ，および，学会大会ホームページ（現在準備中です）にて随時皆様にお知らせいたします．

2．会場　　国立感染症研究所 戸山庁舎 （住所： 東京都新宿区戸山 1-23-1 ）
（国立感染症研究所ホームページ： http://www.nih.go.jp/niid/ja/ ）

編集委員会・評議員会： 共用第 2，3 会議室 他
総会・発表会場　　： 共用第 1 会議室 他
懇親会　　： 感染研食堂

3．発表形式　　液晶プロジェクターを用いた口頭発表，ないしはポスター発表．
※ 演題数により発表時間は調整させていただきます．また，皆様の希望する発表方法が偏る場合など，発表方法の変更をお願いする事がございます．

4．参加申し込み　　要旨提出締め切りおよび事前参加申し込み締め切り： **2015 年 10 月 6 日（火）**（予定）
申し込みの詳細等は次号のニューズレターでお知らせいたします．
大会参加費等は，当日受付にてお支払いください．当日参加も受け付けますが，準備の都合上，できる限り事前の申し込みをお願いいたします．

1）大会参加費　　： 一般 3,000 円　　学生 1,000 円（発表をしない学部学生は無料）
2）懇親会費（予定）： 一般 4,000 円　　学生 2,000 円
3）昼食（お弁当）代： 500 円（一食あたり．希望者のみ）

宿泊は各自でご準備お願いいたします．JR 新宿駅，池袋駅，高田馬場駅周辺はホテル等宿泊施設が豊富です．

5．会場までの交通　　地下鉄東西線 ： 早稲田駅　下車（徒歩 10 分）
地下鉄大江戸線： 若松河田駅 下車（徒歩 10 分）
地下鉄副都心線： 西早稲田駅 下車（徒歩 15 分）
上記地下鉄は JR 新宿，池袋，高田馬場，飯田橋等の主要駅に連絡しており，それら主要駅から下車駅までの所要時間はおよそ 10 分程度です．
会場へ直行する場合，東京駅からは地下鉄東西線の大手町駅を利用しますと便利です．
羽田空港からは，京浜急行を使い，日本橋駅で東西線に乗り換えることができます．

６．大会事務局

大会長　八木田 健司（国立感染症研究所）
〒162-8640　東京都新宿区戸山 1-23-1　国立感染症研究所 寄生動物部
第 48 回日本原生生物学会大会事務局　泉山 信司
Tel：03-5285-1111　内線 2729
E-mail：protozoology2015@gmail.com
お問い合わせは，大会事務局（protozoology2015@gmail.com）へご連絡ください．
なお，電子メールをご利用にならない場合は，泉山（Tel：03-5285-1111　内線 2729）までお問い合わせください．

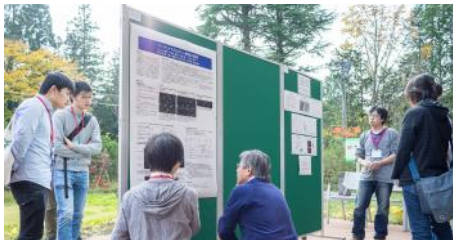
第 47 回 日本原生生物学会大会（仙台） 報告

大会長　　見上 一幸 （宮城教育大学）

大会長　見上 一幸 先生

日本原生生物学会第 47 回大会は，2014 年 10 月 31 日（金）から 11 月 2 日（日）までの 3 日間，宮城教育大学（青葉山地区）で開催されました．日本原生動物学会から日本原生生物学会へと名称が変更されてから初めての大会となりましたが，お陰様で例年以上の盛り上がりを見せました．名称変更を記念いたしまして，本年新規入会者を対象に学会参加費無料処置を行いましたところ，9 名の新規入会者（内 5 名は学生会員）の申請があり，学会の発展に少しでも役に立ったのではないかと自画自賛しております．本大会参加者は 82 名（一般 61 名，学生 21 名）で口頭発表 24 題，ポスター発表 8 題の一般講演がありました．またシンポジウムとしましては，1 日目に若手の会シンポジウムとして 8 人のシンポジストによる「真核生物のスーパーグループを渡り歩く」が開催され，2 日目には活性化委員会シンポジウムとして 4 人のシンポジストにより「Crossover of Protistology ～原生生物をとりまく多様な世界～」が開催されました．最終日には，文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「マトリョーシカ型進化原理」との共催で学校教員向け一般公開シンポジウムとして「寄生，共生，マトリョーシカ～細胞共生と進化～」と題しまして国立感染症研究所の永宗 喜三郎 先生にご講演をいただきました．いずれのシンポジウムも多種多様な生物が登場し，大変面白く，有意義なシンポジウムとなりました．また特に，趣旨にご賛同いただいた非会員の方々に来ていただけたことは本学会の将来のためにも有益であったと思っております．大会終了後，ご講演いただいたシンポジストの中から，本学会に 2 名が新規入会して頂けたことを嬉しく思います．31 日の夜には，宮城教育大学萩朋会館に於いて，若手の会・評議員会合同懇親会，1 日の夜には大会懇親会が例年通り開催されました．大会懇親会では，用意しておりました 6 kg の牛タンがみるみるなくなり，地元宮城の日本酒の飲み比べも併せてご好評を頂ました．今後とも懇親会で続けていただけますと呑兵衛冥利でございます．大会最終日には，若手の会員を対象にいたしましたベストプレゼンテーション賞（BPA）の授賞式を行いました．今年度は，梁瀬 隆二 氏（兵庫県立大学），仲村 康秀 氏（北海道大学），矢吹 彬憲 氏（海洋研究開発機構）の 3 氏の方が受賞されました．非常にレベルの高い発表で今後の成果が楽しみです．

大会会場　宮城教育大学



一般発表，ポスター発表，シンポジウム　→

今回は会場が宮城教育大学ということもあり，一般の学校の先生方にも是非，原生生物について理解を深めていただきたいという趣旨から，教員向けシンポジウムと銘打ちまして地元の学校の教職員の方を対象にしたシンポジウムを企画いたしました．同時期に化学の研究発表会や運動部の試合があり，当日の教職員の参加者は期待していたほどではありませんでしたが，先生方を通じて子供たちに原生動物の面白さを伝えることができたのではないかと思います．

この大会は多くの方々の有形無形のご協力で成り立っておりました．ここで改めまして厚く御礼申し上げます．それではまた，東京でお目にかかれるのを楽しみにしております．

懇親会

学会賞受賞者
月井 雄二　氏
（左は今井 会長）

奨励賞受賞者
西上 幸範　氏
（左は今井 会長）

大会参加者一同

活性化委員会からのお知らせ　　活性化委員長　福田 康弘（東北大学）

【 はじめに 】

活性化委員会は，2014 年度に 4 つのシンポジウム・ワークショップの企画と運営を行いました．これらは，学会名の改称を記念するとともに，原生生物の研究に携わる研究者の連携を強め，さらに原生生物の魅力を知っていただくことを目的としたものです．これらシンポジウム・ワークショップの概要を改めて会員各位へ報告いたします．

【 各シンポジウムとワークショップについて 】

1）日本動物学会　第 85 回仙台大会　シンポジウム

タイトル： 原生生物の魅力と研究最前線
日　　程： 2014 年 9 月 12 日（金）（9:00 ～ 11:30）
会　　場： 東北大学 川内北キャンパス
講　　演：

「微化石：姿なき？地球史の影の立役者」　鈴木 紀毅（東北大学）
講演では，まず原生生物の化石（微化石）が過去の地球環境の推定に重要なツールであることを説明されました．そして最古の微化石から現代に至るまで，重要な微化石の紹介と，それらが表す地球史を発表されました．

「マラリア原虫の薬剤耐性から進化を考察する」　美田 敏宏（順天堂大学）
まず抗原虫薬の使用地域と，薬剤耐性を獲得したマラリア原虫の出現と分布の変化を紹介されました．そして，ある抗原虫薬への耐性獲得は，本来は原虫の生存に負の選択を導く変異であったこと，さらに薬剤投与による強い選択圧への適応という特殊な進化であったことにも言及されました．

「いかにして繊毛虫の世代交代は運命づけられるのか？」
福田 康弘（東北大学），明松 隆彦（York 大学），Ronald E. Pearlman（York 大学）
繊毛虫の接合において，減数分裂を終えた配偶核で新奇のゲノム切断と修復が起きていることを示唆する知見を発表されました．さらに配偶核ゲノムの切断と修復が接合のチェックポイントにかかわる可能性についても紹介されました．

「操作実験によるシロアリ共生原生生物群集の成立要因の解析」　北出 理（茨城大学）
シロアリの消化管に共生する嫌気性の原生生物について，共生体の機能，また宿主種ごとに異なる種構成になっていることなどを紹介されました．また実験的に明らかになった知見として，共生原生生物の種構成が宿主の群集サイズの影響をうけること，また雑種の共生原生生物種はいずれかの親種の，あるいは新しい種構成へ収斂することについて講演されました．

「バイオマスとシロアリ共生原生生物」　守屋 繁春（理化学研究所）
引き続いてシロアリの共生原生生物が話題となりましたが，ここでは共生原生生物が介している物質代謝のメタボロームなど，オミクス解析を基軸とした講演をされました．さらに共生原生生物によるセルロース代謝の解明からセルロース系バイオマスを用いたエネルギー生産への応用についても話題を提供していただきました．

備　　考：本シンポジウムは，日本動物学会第 85 回仙台大会の公募シンポジウムとして採択され，開催されました．

2）第 47 回日本原生生物学会大会（仙台大会）　シンポジウム
タイトル：Crossover of Protistology　～原生生物をとりまく多様な世界～
日　　程：2014 年 11 月 1 日（金）（14:10 ～ 16:20）
会　　場：宮城教育大学
講　　演：

「湖沼・海洋沖帯の微生物ループにおける原生生物の生態学的役割」　中野 伸一（京都大学）
大型の捕食者からなる従来の食物連鎖に加えて，原生生物と細菌の物質循環である微生物ループの紹介から始まり，さらに湖沼の深度で異なる微生物，また周期的に優占する大型細菌とキネトプラスチダの相関など，複雑な水圏の微生物生態系について講演されました．

「微生物生態系における細菌の遺伝子水平伝播：水域生態系における遺伝子の動態を考える」松井 一彰（近畿大学）
細菌の遺伝子水水平伝播について，遺伝子源の種類，溶存態 DNA の量，さらに水銀耐性遺伝子を例とした水平伝播により拡散した細菌の獲得形質を話題に発表されました．また原生生物の食胞内が，細菌間の遺伝子授受の機会になっていることも紹介されました．

「アピコンプレクサ原虫の多様なミトコンドリアゲノム構造」　彦坂 健児（帝京大学）
アピコンプレクサは生物界で最小のミトコンドリアゲノムを持っています．この講演では，これまでアピコンプレクサで解析された全てのミトコンドリアゲノムの構造と特徴を横断的に紹介して，その比較解析から示唆されたミトコンドリアゲノム構造の進化を話題にされました．

「細胞内共生の成立ち：藻類の色素体から謎説く」　平川 泰久（筑波大学）
二次共生に由来する色素体を持つクロララクニオン藻に注目して，核ゲノムにある葉緑体関連タンパク質が四重の色素体膜を通過して運搬される分子機構を講演されました．とくに翻訳されたタンパク質の輸送系路，また膜貫通に必要な輸送シグナル配列と膜輸送分子の知見を紹介されました．

3）第 37 回分子生物学会年会　ワークショップ
タイトル：原生生物　～モデル生物としての大いなる可能性を探る～
The potential of protists as next model organisms for molecular biology
日　　程：2014 年 11 月 25 日（火）（13:15 ～ 15:45）
会　　場：パシフィコ横浜
講　　演：

「繊毛虫テトラヒメナ・ミオシンのユニークな性状と機能」　沼田 治（筑波大学）
まずテトラヒメナのゲノムにコードされた 13 種類のミオシンについて，ミオシンクラスター内の系統的位置や構造の特徴を紹介されました．さらに MYO12 や MYO13 などについて，ユニークなドメイン構造，また遺伝子変異株による各分子の局在や機能解析の知見を講演されました．

「中心子構築機構研究におけるクラミドモナスの有用性」　廣野 雅文（東京大学）
講演は中心子が形成される時の足場となるカートホイールを話題にされました．様々なクラミドモナス変異株を用いた解析結果と，その蓄積から明らかになったカートホイールの分子構造と形成過程について発表されました．

「繊毛虫の大核と小核を分ける核膜孔複合体の構造と機能」
岩本 政明，荒神 尚子，小坂田 裕子，森 知栄，平岡 泰，原口 徳子（情報通信研究機構）
繊毛虫の重要な特徴である 2 核性の成立には，大核および小核のそれぞれに特異的な輸送機構が不可欠です．講演では，それぞれの核を特徴づけている核膜孔複合体の構造と構成分子，さらにそれぞれの核に特異的な核輸送シグナルについて紹介されました．

「**The *Tetrahymena* Hsp90 co-chaperone Coi12p promotes siRNA loading by ATP-dependent and ATP-independent mechanisms**」
望月 一史（Institute of Molecular Biotechnology of the Austrian Academy of Sciences）
繊毛虫では，大核ゲノムの分化時に大規模なゲノム再編成が起きることが知られています．講演は，scnRNA によるゲノム再編成のメカニズム全容の解明にむけた最新の知見として，新規のコシャペロン Coi12p が Twi1p の siRNA 取り込みにかかわることを明らかにした解析結果を中心に発表されました．

「**Molecular mechanism of induction of sexual reproduction in the ciliates**」　杉浦 真由美（奈良女子大学）
繊毛虫ブレファリズマの接合誘導物質である Gamon 1 を話題にして講演されました．Gamon 1 が種ごとに異なった 1 次構造を持つこと，またの活性に関わる糖鎖付加，Gamon 1 レセプターについて発表されました．

「**トランスクリプトーム解析とプロテオーム解析によるミドリゾウリムシの単離共生藻胞膜に存在するタンパク質の同定**」　洲崎 敏伸，早川 昌志，槇本 純（神戸大学）
ミドリゾウリムシの共生クロレラを包む PV 膜の構成分子，さらに共生クロレラを維持する機構の解明を目指して，white と green のミドリゾウリムシの転写産物と膜タンパク質を用いた網羅的比較解析の進捗を発表されました．

「**Nucleomorph genome evolution as a model system of genome reduction in endosymbiosis**」
鈴木 重勝，石田 健一郎（筑波大学）
クロララクニオン藻とクロプト藻は，共に二次共生由来の色素体を持ち，しかも痕跡的な共生体核（ヌクレモルフ）を持っています．講演では，それぞれのヌクレモルフゲノムに見られる構造的特徴の比較解析と，さらに共生細胞が色素体へ至る時の EGT について発表されました．

「**マラリア原虫が産生する植物ホルモンと脳マラリア重症化：マウスマラリア原虫をモデルとした研究例**」
松原 立真[1,2]，小嶋 美紀子[3]，榊原 均[3]，永宗 喜三郎[1,2]（1: 国立感染症研究所，2: 筑波大学，3: 理化学研究所）
マラリア原虫は植物免疫ホルモンであるサリチル酸を産生します．講演では，原虫が産生するサリチル酸が宿主個体の免疫に与える影響，またサリチル酸による免疫への影響が原虫の病原性におよぼす変化を話題に発表されました．

備　　考：本ワークショップは，原生生物学会会員と活性化委員会が共同で企画し，公募ワークショップとして採択され，開催されました．

4）第 84 回日本寄生虫学会大会
タイトル：原生生物学会 出張シンポジウム「原生生物における多様性と普遍性」
日　　程：2015 年 3 月 21 日（土）（14:20 ～ 15:35）
会　　場：杏林大学 三鷹キャンパス
講　　演：

「**“みなしご”原生生物の研究よりあぶり出される真核生物進化**」　矢吹 彬憲（海洋研究開発機構）

「**自由生活型アメーバ *Amoeba proteus* の運動機構**」　西上 幸範（京都大学）

「**二核性繊毛虫テトラヒメナの核膜孔複合体と核-細胞質間輸送**」　岩本 政明（情報通信研究機構）

備　　考：本シンポジウムは，記事の執筆時では開催されていないため，それぞれのご講演の内容について記載していない旨，おことわりいたします．

【 終わりに 】

活性化委員会ではシンポジウムの企画を検討するにあたり，“原生生物”を共通項として，できるかぎり幅広い分野の知見を共有する機会となるように，シンポジウムの目的を定めました．古生物学から疫学，細胞生物学，分子生物学，ゲノム科学，生態学など，原生生物学のあらゆる分野で活躍しておられる研究者へお声がけすることで異なる専門分野の研究成果が一堂に会し，いずれのシンポジウム・ワークショップも原生生物の「生き物としての面白さ」と「研究対象としての新たな可能性」が，参加者の皆様で共有される機会になったと思われます．これまでのシンポジウム・ワークショップにおける活発な議論を拝聴し，当初の目的は十分達成されたものと考えております．
これまで開催してきたシンポジウム・ワークショップは，会員・非会員を問わず快く発表を引き受けていただきました講演者の皆様，講演者を紹介いただきました方々，そして原生生物学会の会員皆様によるご理解とご協力の賜物です．この場を借りて，篤く御礼を申し上げます．

日本分類学会連合 第 14 回総会 報告　　庶務　島野 智之（法政大学）

日　程：2015 年 1 月 10 日（土）（10:30 ～ 12:00）
会　場：国立科学博物館 上野本館 講堂
出　席：今井 壯一（会長），島野 智之（庶務）

【 報告事項 】
全 25 加盟団体より 2 名の代表者（うち 1 名は団体の長あるいはその代理）の参加があり総会は成立した．

（報告 1）庶務（江口 克之）

2014 年度の活動
2014 年 1 月 11 日
・第 13 回総会を開催（国立科学博物館 上野本館 講堂）

・第 13 回公開シンポジウム「生物多様性条約と名古屋議定書が分類学研究分野へ与えるインパクト ～とくに国内措置について～」を開催（国立科学博物館 上野本館 講堂）

2014 年 2 月 15 日
・生物科学学会連合 第 9 回定例会議に出席（村上 哲明 代表）

2014 年 3 月 27 日
・生物科学学会連合 第 1 回ポスドク問題検討委員会に出席（江口 克之）

2014 年 4 月 14 日
・第 31 回役員会を開催（東京大学総合研究博物館）

2014 年 7 月 24 日
・「名古屋議定書の実施に向けた意見交換会 ～学術分野での対応について～」に参加，講演（村上 哲明 代表）

2014 年 7 月 25 日
・生物科学学会連合 第２回ポスドク問題検討委員会に出席（江口 克之）

2014 年 7 月 26 日
・「日本学術会議 公開シンポジウム：昆虫における刺激の受容とその反応」への協賛

2014 年 9 月 19 日
・「日本学術会議 公開シンポジウム：自然史標本の継承 ～人類の財産を失わないために今なすべきこと～」への後援

2014 年 10 月 11 日
・生物科学学会連合 第 10 回定例会議に出席，代表選挙投票（村上 哲明 代表）

2014 年 12 月 15 日
・「日本学術会議 緊急公開シンポジウム：デング熱と蚊の分類と自然史標本」の共催

2015 年度の活動

2015 年 1 月 9 日
・第 32 回役員会を開催（東京大学 総合研究博物館）

（報告 2）ニュースレター（富川 光）

2014 年 4 月に第 24 号を公開.
・第 13 回シンポジウムプログラム，加盟学会の大会・シンポジウム要領を掲載.

2014 年 12 月 1 日に第 25 号を発行.
・第 14 回シンポジウムプログラム，加盟学会の大会・シンポジウム要領を掲載.
・連合ホームページからダウンロードできます.

（報告 3）ホームページ（佐々木 猛智）

ニュースレターの目次を作成.

（報告 4）データベース（海老原 淳）

国内重要コレクション調査を進め，植物については結果の公開に向けて準備を進めた.

（報告 5）メーリングリスト（三中 信宏）

Taxa 会員数 1,026 名（2015 年 1 月 9 日現在），1 年間に 19 名増.

（その他）教科書問題（富川 光）

2014 年 2 月 26 日に第 1 回会合．学習指導要領改訂に向けた用語統一.

【 審議事項 】

（審議 1）役員の選出

役員会案・連合規約第 8 条
監査員：篠原 明彦（国立科学博物館 動物研究部）（2 期目：2015 ～ 2016 年度）

（審議 2）2015 年度広報出版委員会委員の選出

佐々木 猛智 （委員長，Web：東京大学 総合研究博物館）（継続）
富川 光 （ニュースレター：広島大学大学院 教育学研究科）（継続）

海老原 淳　（データベース：国立科学博物館 植物研究部）（継続）
川田 伸一郎　（出版，命名規約：国立科学博物館 動物研究部）（継続）
三中 信宏　（メーリングリスト：独立行政法人 農業環境技術研究所 地球環境部）（継続）

（審議 3）2014 年度決算

分担金支払状況
・一般決算（清 拓哉）
・会計監査報告（篠原 明彦）
・特別会計（川田 伸一郎）
・会計監査報告（篠原 明彦）

（審議 4）2015 年度事業計画

4−1）2015 年第 14 回公開シンポジウムの開催（国立科学博物館 上野本館 講堂）
・2015 年 1 月 10 日　13:00 〜 17:00　「国立自然史博物館の設立を望む」
・2015 年 1 月 11 日　10:00 〜 16:45　「分類学と応用科学の接点 − 人間社会にとって必要不可欠な分類学」

4−2）2015 年 3 月　生物科学学会連合 第 11 回定例会議に出席予定

4−3）2016 年　第 15 回公開シンポジウムの開催　内容，開催地，開催時期
・2016 年 1 月 9 日（土）の午後を予定.

4−4）ニュースレター
・26 号：連合加盟団体のトピックス，第14回シンポジウム要旨，加盟学会大会・シンポジウム案内等を予定.
・27 号：連合加盟団体のトピックス，加盟学会大会・シンポジウム案内等を予定.
・加盟団体からも記事をお寄せください.

4−5）ホームページ
・ニュースレターやシンポジウムの案内等の分類学に関する情報の掲載を継続的に行う.

4−6）データベース
・国内の重要コレクション実態調査を進める．今年度は，動物のコレクション調査を開始する.
・植物のコレクション調査結果を連合ウェブサイトで公開する.
・国内の重要コレクション調査と GRBio への機関登録について
調査を引き続き実施しつつ，GRBio（国際的な生物資源の保存機関データベース http://grbio.org）に日本の機関のデータを提供していきたい．登録内容について逐一各機関に問い合わせるのは現実的でないので，連合が一括してデータを登録する方向で行いたい.

（意見）機関のアクロニムを確定する必要があるので，機関に連絡をとらずに進めることは不可能.
（回答）連絡をとりつつ進めたいが，マンパワーが限られるため，登録件数は限られることになりそうである.

4−7）その他

（審議 5）2015 年度予算

2015 年度の分担金　10,000 円
予算案（清 拓哉）承認

（審議 6）その他

6-1）団体代表者名簿に関する変更・修正を後日依頼する．（江口 克之）

6-2）ABS 関連の報告（村上 哲明）
・ヨーロッパでは ABS が求めるよりも厳しいルール作りを目指している.
・ABS 関連法令を生物多様性条約発行（1993 年 12 月 29 日）以前に遡って適用する可能性.
・研究機関において海外調査審査委員会の設置の動き.
・日本にも影響が及ぶ可能性.
・日本でも研究者，研究団体間での ABS 問題対策に関して情報共有や相互協力が不可欠.
・現地行政の混乱，現地研究者の対応能力の問題.
・論文投稿の際，許可を取って調査が行われたかが問題になる事例.
・できることから始める.
・証拠となる文書を可能な限り残す.

6-3）自然史遺産の選定・登録に力を貸してほしい．（日本学術会議：動物科学分科会，自然史古生物分科会，自然史財の保護と活用分科会）

（以上，日本分類学会連合の議事録に基づいています．）

アジア原生生物学会（ASOP）運営会議 報告

事務局・庶務補佐　北出　理（茨城大学）

2014 年 11 月 27 ～ 29 日にかけて，インドの西ベンガル州カリヤニ（コルカタ近郊の町）で，National Dairy Research Instituteとカリヤニ大学を会場にアジア原生生物学会議（第 2 回 Asian Congress of Protistology: ACOP2014）が開催されました．今回，国際委員の代理として，この学会へ参加すると共に，事務局会議に出席して参りましたので，ご報告をさせていただきます．

今回の学会参加者は名簿では 79 名で，うち日本からの 5 名を含め，28 名がインド国外からの参加でした．会期中の 11 月 28 日に，アジア原生生物学会（Asian Society of Protistologists: ASOP）運営会議が行われました．日本からは，会長代理で藤島 政博 前会長，国際委員代理として小林 富美惠 先生と北出が出席いたしました．

会議の最重要議題は次期会長の選出と次回大会の開催国の決定です．議論の結果，新会長には中国の中国海洋大学 Weibo Song 教授が選ばれました．また新事務局を中国におくこととなりました．なお，今回の ACOP 大会では特に中国の若手研究者で優れた発表と活発な質疑をされている方が目立ち，勢いを感じたことは印象的です．次回の大会の開催国に関しては，トルコを第 1 の候補として打診し，これが難しければバングラデシュにさらに打診する，ということで委員会の合意が得られました．

また，ASOP 事務局から大会での発表に対して授与される賞があり，副賞として 100 ドルが授与されます．今回は口頭発表・ポスター発表あわせて5件が賞に選ばれ，会議で承認されました（北出のポスター発表も選出頂きました）．また今回の会議で，この賞の名称を Asian Young Protistologist Award とすることが承認されました．

今回の会議では次期大会に日本を，また次期会長に藤島先生を推す声が，中国や韓国から強かったのですけれども，今回は辞退をさせていただくことになりました．ただ，4 年後の大会の会議では，再び会長と大会開催を日本に，という声が高まることが予想されます．次回大会には，ぜひさらに多くの皆様に日本からのご参加をお願いできればと思います．

今回の ACOP 大会は地方の小さな都市での開催でしたので，宿の状況も必ずしも快適でなく，また乗り継ぎ時間も含め飛行機での移動にも長時間かかる旅でした．インドのお国柄で，学会の懇親会を含めアルコール類はなし，という点も個人的には少々辛いところでした．藤島先生，小林先生には厳しい状況の中，大会参加と会議へのご出席をいただきましたこと，事務局からこの場を借りて心より御礼申し上げます．

アジア原生生物学会議 2014 参加報告

保科　亮（長浜バイオ大学）

去る 2014 年 11 月，インドで開催された Asian Congress of Protistology（ACOP）に参加してまいりました．アジアの中でもディープな匂いのするインドへの渡航．この機会を逃せばないかもしれない．そんな思いもあって昨年から虎視眈々と狙っていた学会でした．

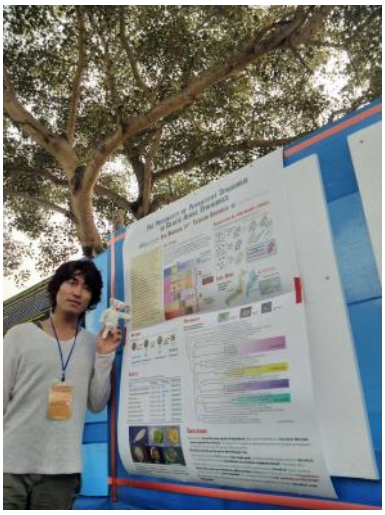
開催地はウェストベンガル（インド東部）の都市コルカタ（旧カルカッタ）から北へ 50 km ほど行ったカリヤニという場所で，コルカタのホテルスタッフに「知らない」といわれるほど小さな町でした．

参加者は圧倒的に地元のインド人が多く，バングラディッシュ，中国と続き，サウジアラビアや韓国，アジア以外ではイタリア，イギリス，カナダからの参加者がありました．日本からは藤島政博先生と河本雄貴氏（山口大），小林富美恵先生（杏林大），北出理先生（茨城大），それと私を含め 5 名の参加です．会場は町のカンファレンスセンター的な場所で，一部屋が口頭発表用に確保されていましたが，ポスター会場が見当たりません．気になるのは，庭に並ぶ，竹を柱に合板を打ち付けたような衝立．まさか？ 青空キター！ ちなみに 17:30 から予定された初日のポスターセッションは，真っ暗（日の入りは 16:50）で翌日に延期という，なかなかのインドらしさ？ も堪能です．北出先生はポスター賞を受賞です．

乾季のため蚊が少ないとのことでしたが，それでもかなり多く，一部のトイレなどはぞっとするほどでした．日本原生動物学会ではあまり見かけないマラリア関連の研究が多かったのも納得でした．

最終日の夜はもちろん懇親会です．カリヤニには酒屋も酒を出す店もない，ということで期待はしていませんでしたが，まさかの酒なし懇親会です．会場の狭さやテーブル配置も相まって，個人的つながりのあるもの同士でテーブルにつき，ご飯を食べて終了という味気ない幕切れで，こういった場でのお酒の重要性を再認識させられるものでした．

大会では女性スタッフ・女子学生が民族衣装に身を包み歓待してくれました．また，空港への出迎えから，朝晩のホテル・会場間送迎と，カリヤニ大の学生を含むスタッフの方々には大変お世話になった 3 日間でした．



青空ポスターセッション

色鮮やかな衣装のインド女性たち

日本原生生物学会仙台大会 若手の会

第 47 回日本原生生物学会仙台大会では，「真核生物のスーパーグループを渡り歩く」と題したシンポジウムを開催致しました．このシンポジウムは，代表的なスーパーグループに属する真核微生物について，それぞれ研究を行っている若手研究者たちによる発表を通じて，真核微生物の多様性と研究手法について，網羅的・体系的に把握し，共有することを目的として企画致しました．実際に今回のシンポジウムでは，代表的なスーパーグループに属する真核微生物の研究をしている 7 名の若手研究者をお招きし，ご講演を頂きました．7 名の研究者それぞれが異なるスーパーグループに属する真核微生物について，様々な角度からの研究をご紹介頂き，改めて真核微生物研究の奥深さと面白さを教えて頂きました．また，一度にこれだけの代表的なスーパーグループに属する真核微生物の研究の話を聞く機会はなかなか無いので，それぞれのグループの生物同士の関わりや多様性について考える大変良い機会となりました．参加された皆様は，このシンポジウムのタイトルの通り，真核生物のスーパーグループの全体像を俯瞰しながら渡り歩くことが出来たのではないかと思います．今回のシンポジウムで素晴らしいご講演を頂きました 7 名の研究者の方々には改めてお礼申し上げます．また，このシンポジウム開催にあたってご尽力頂いた大会実行委員の先生方，そして若手の会役員の皆様には深く感謝致します．

シンポジウム

懇親会

若手合宿 in 川渡

若手合宿

11 月 2 日，3 日の 2 日間に渡って，東北大学川渡フィールドセンターにて若手合宿を開催致しました．1 日目，まずは交流会で終わったばかりの本会での発表やシンポジウムのことなどについて和気あいあいと語り合い，親睦を深め合いました．その後に行われた勉強会では，お互いの研究について時間を忘れ，深夜まで存分にディスカッションを行いました．2 日目はいよいよ牛のルーメン原虫の観察会です．見たことのないルーメン原虫の姿形，そしてそのバラエティの豊かさに参加者からは驚きの声が上がっていました．本会終了後直ぐの開催ということで，タイトなスケジュールの中かなりハードな合宿だったかと思いますが，疲れも見せずに大いに合宿を盛り上げて下さいました参加者の皆様には心より感謝申し上げます．今後もこのような交流の機会を増やし，原生生物研究を盛り上げていければと思います．

原生動物園 Vol. 1 ～ 3 Web にて公開中！

「原生動物園」は若手の会が発行を行っている Web 科学雑誌です．原生生物研究者の声や原生生物の魅力，知識などをたくさんの原生生物たちの写真とともに紹介しています．

原生動物園は若手の会ホームページにて公開していますので，どうぞご覧ください．

原生動物園ホームページ（https://sites.google.com/site/protozoolgarden/）

若手の会へご意見，ご要望をお寄せ下さい

日本原生生物学会若手の会では，若手研究者の皆様のご意見を必要としています．若手を中心にこんなことをしたら面白い，こんな企画をぜひ行いたいなどのご意見，ご要望をどしどしお寄せ下さい．また，若手の会役員も随時募集しています．興味のある方は梁瀬（ryuji.yanase@gmail.com）までご連絡下さい．

若手の会ホームページ

https://sites.google.com/site/youngprotozoologists/

2015 年度 若手の会役員

会長	梁瀬 隆二	（兵庫県立大学）
会計	内之宮 光紀	（九州大学）
編集長	早川 昌志	（神戸大学）
役員	末友 靖隆	（ミクロ生物館）
役員	福田 康弘	（東北大学）
役員	久冨 理	（富山大学）
役員	松原 立真	（筑波大学）
役員	柴田 あいか	（立命館大学）
役員	丸山 顕史	（大阪大学）

原生生物学関連の学会開催情報

ミクロ生物フェスティバル 2015（日本ミクロ生物研究会）

日時： 2015 年 6 月 7 日（日） 13 ： 00 ～ 17 ： 00　　会場： 京都大学 理学研究科セミナーハウス

内容： 原生生物の展示・分譲会，ワークショップ，関連グッズの展示・販売など

参加費： 無料　　詳細情報： https://sites.google.com/site/wjproto/

2015 Conference on Ciliate Molecular Biology

日時： 2015 年 7 月 10 日（金）～ 16 日（木）　　会場： Camerino, Italy

詳細情報： http://cost.cgm.cnrs-gif.fr/?q=content/ciliate-molecular-biology-2015

7th European Congress of Protistology (ECOP VII)

日時： 2015 年 9 月 5 日（土）～ 10 日（木）　　会場： Seville, Spain

詳細情報： http://feps-protists.eu/ecop/

備考： The International Society of Protistologists (ISOP)との joint meeting となります.

事務局からのお知らせ　　庶務　島野 智之（法政大学） 庶務補佐　北出　理（茨城大学）

若手会員の原生生物学関連国際会議への派遣費助成について

国際交流基金を原資にした若手会員の国際会議派遣費助成について，評議員会で募集対象学会等について検討を行ってまいりましたが，総会の承認を経て，今年度は下記の国際学会の発表者への助成金を交付することが決定いたしました．2015 年 3 月現在，すでに募集を行って審査中です．概要は以下の通りです．

（1）対象学会：
Ciliate Molecular Biology Conference　2015 年 7 月　Camerino, イタリア
VII ECOP Congress　2015 年 9 月　Seville, スペイン

（2）援助額　：　総額 最大90万円

（3）応募資格： 2015 年 4 月 1 日現在 35 歳以下で，口頭発表またはポスター発表の発表者であること

（4）助成人数： 若干名

（5）応募締め切り： 2015 年 2 月 25 日

応募をいただいた皆様，ありがとうございました．
来年度も助成国際会議を決めて募集を行う予定です．どうぞふるってご応募下さい．

編集委員会からのお知らせ　　原生動物学雑誌 編集委員会

総会でご報告しました通り，編集委員会では，原生動物学雑誌第 1 巻（1968 年発行）から全巻を電子化する作業を行いました．作業にご協力いただいた歴代の編集長には，この場を借りて感謝申し上げます．現在，これらを PDF ファイルとして雑誌ホームページ（http://protistology.jp/journal_j.html）に公開しております．各巻号が一括ファイルとしてダウンロードされるようになっています（ファイルサイズが大きくダウンロードに時間のかかるものがありますがご容赦ください）．これまでの学会と学会誌の歩みを感じられるものと思います．どうぞご覧いただき，大いにご活用くださいますようお願い申し上げます．

本年度の原生動物学雑誌第48巻は，1・2 号合併号として 10 月の印刷・発行を予定しております．皆様からの積極的なご投稿（特に原著論文）をお待ちしております．

編集・刊行　日本原生生物学会 編集事務局

〒651-2492　神戸市西区岩岡町岩岡 588-2
情報通信研究機構 未来 ICT 研究所 バイオ ICT 研究室
（編集長： 岩本 政明）
Tel：078-969-2247　　Fax：078-969-2249
E-mail：iwamoto@nict.go.jp

ニューズレター担当　末友 靖隆（岩国市立ミクロ生物館）
道羅 英夫（静岡大学）
西山 学即（福島県立医科大学）

Protistology Newsletter 28 号は学会ホームページからもダウンロードできます．非会員の方への宣伝等にぜひご活用ください．

http://protistology.jp/journal/nl_letter/NL28.pdf